

立教セカンドステージ大学「修了生が語る  
アクティブシニアの生き方」

上野原市

# 西原地域活性化の7年間の取組み

2016.5.6

特定非営利活動法人さいはら

事務局長 白井誠一



# 何故、西原の活性化に取り組んだのか

- ・定年退職後、立教セカンドステージ大学一期生としてNPO、地域活性化、CB(SB)などを学ぶ
- 
- ・同じゼミに上野原市議がおり、同地域の活性化活動に力を貸して欲しい旨要請された
- 
- ・上野原市役所で策定した活性化案をプレゼン
- 
- ・立ち上げ時、RSSCが全面的にバックアップ  
(field work ,home coming day,TV出演等)

# 上野原市西原地区とは

中央線上野原駅、中央道上野原インターどちらでも車で30分程度にある相模川水系鶴川上流で標高600mの自然豊かな中山間地域にある農山村

## <西原地域の人口>

昭和40年代 約2500人⇒ 現在 600人弱

65歳以上人口が50%となつて、ついに**限界集落**

西原地区の学校は統廃合により、

**小学校のみ**（生徒10名、1年、2年生ゼロ）

# 西原地域活性化の取組み経緯

## —長田市議とその仲間たちの活動—

- ・昭和56年 地元有志で「西原をよくする会」設立
- ・平成4年 文化祭「ふるさと祭り」を開催

地域づくりや活性化に本格的に取り組む任意団体「西原地域活性化推進協議会」が発足  
「農産物生産・直売」「特産品開発」「びりゅう館運営」「三頭太鼓保存会」など8部会を置いて活動

- ・平成13年 農水省中山間地域事業の一環として活性化施設「羽置の里 びりゅう館」を建設

# 平成21年以降の新たな西原活性化の取組み

第1期：平成20年12月～

羽置の里 びりゅう館の再建



第2期：平成22年6月～

NPO法人の設立と特産品づくり



第3期：平成25年10月～

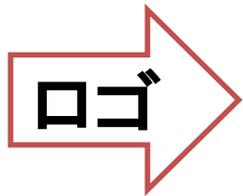
「小さな拠点」づくり & 高齢者福祉サービス



第4期：平成27年10月～

総務省地方創生加速化事業 &  
上野原市移住促進事業

第1期(平成20年12月～)  
羽置の里びりゅう館の再建



# 「羽置の里 びいゅう館」について

- ・概要：平成13年建築 総費用3億円  
農水省（中山間地域農村活性化事業）
- ・目的：都市住民との交流の場（活性化の拠点）
- ・状況：建築当時から住民間で主導権争い  
その後も従業員と地元民とのトラブルが  
続き赤字経営⇒ 黒字経営
- ・現在：平成23年から指定管理はNPOさいはら

# 改善に取り組んだ項目

- ①「新びりゅう館」活性化の目的
- ②「新びりゅう館」のめざす姿(コンセプト)
- ③地元および地域外へのPR方法
- ④食堂メニューの見直し
- ⑤お土産コーナーの充実
- ⑥通年イベント企画
- ⑦食堂、物販の客数、注文内容などDATA分析
- ⑧財務内容分析と財務改善
- ⑨従業員を含めた今後の運営体制 他

# 地域内外に「びりゅう館」を知ってもらう

- ・地元住民向け「びりゅう館便り」の毎月発行
- ・パンフレット、観光MAP、ホームページの作成
- ・マスコミの活用（雑誌、新聞、テレビなど）
  - TBS、テレビ山梨など
  - 朝日新聞、山梨日日新聞など
  - 「山と溪谷」など雑誌記事
  - インターネット
- ・大学との連携、首都圏NPOとの交流
  - RSSCおよびRSSC同窓会の取組みテーマ
  - 首都圏NPO（ECOMなど）とのコラボ事業
  - 帝京科学大学（上野原市）

**第2期 平成22年6月～**  
**NPO法人の設立と特産品づくり**

# 特定非営利活動法人「さいはら」の設立

平成22年2月発起人会 → 会員募集(22名)



3月 設立総会



4月 設立申請(山梨県) → 6月認可  
登記申請(法務局)



平成22年6月23日 法人成立



現在会員数  
50名

# 設立当初の 特定非営利活動法人さいはらの目的

この法人は西原地域活性化施設である「羽置の里 びりゅう館」を拠点に活動し、西原特産品の開発、製造、販売事業を中心とするコミュニティビジネスを展開し、西原地域経済および雇用創出に寄与します。

併せて、イベントの企画・実施など西原地域のPR活動を通じて、首都圏はじめ他地域の住民に西原への来訪および移住を推進し、西原地域活性化に繋げることを目的とします。

# 取組んだ事業

- ・「びりゅう館」ブランド商品づくり・育成・販売  
地元果実ジャム、刺身こんにゃく、千石味噌、金糸瓜など
- ・商品販路の拡大と**西原雑穀**の普及  
地元JA関連店舗  
桐原地区コンビニ、地元ゴルフ場、池袋NPOえんがわ市など  
アンテナショップ(北区赤羽、滝野川)  
小菅村温泉、秋山温泉他 計15店舗 ※2012.9現在
- ・イベント企画・参加  
県主催イベント: 国民文化祭(長寿食の祭典)、県民交流の日  
市主催のイベント: 商工祭、農林業祭りなど  
地元イベント: 西原ふるさと祭り、盆踊りなど
- ・地域ボランティア  
独居老人への配食サービス

# NPO法人さいはらの課題

## 1) 人材不足

管理、事務、営業職が出来る人材確保が難しい

- ・特産品を販売する営業職がいない
- ・国、県、市、税務署、法務局など役所への届出、申請書類が書ける人材

## 2) 若手がいない

⇒高齢者に新しいことをする気力、体力がない

# 地域ブランド商品の限界

- 原価意識、計算に弱いことから利益率が低い
- 人件費が賄えないことからびりゅう館スタッフが暇なときに製造⇒“片手間仕事”
- 食品も工芸品も地元原産にこだわっているため商品、原材料の安定供給が難しい
- 大手流通業への納品が難しい  
    パルシステム→適合検査・異物混入(金探)
- 品質管理  
    賞味期限の設定・食品表示・包装容器選定etc

第3期：平成25年10月～  
「小さな拠点」づくり  
& 高齢者福祉サービス

限界集落に近づきつつある西原地域で、  
今迄のような活性化の取組みは、  
本当に住民が望んでいるものなのか！！



平成25年7月 国交省過疎地対策「小さな拠点」  
づくりモニター調査に申請⇒ 採択(全国12地域)



モニター調査の一環として  
西原地域全世帯アンケート実施

# アンケート結果を踏まえた 「小さな拠点」づくりの取り組み

既存の交流施設を活用し、地域住民が“楽しい”を共有(集える)できる高齢者支援サービスを提供する「小さな拠点」づくりを目指す

## ＜主な高齢者支援サービスの取り組み項目＞

1. 介護予防サービス
2. 認知症予防カフェ
3. 送迎車両(地域内循環交通)
4. 配食サービス
5. 福祉避難所の役割

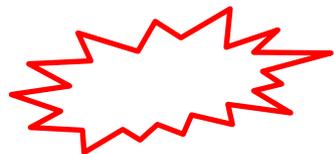
**第4期：平成27年10月～**  
**地方創生加速化事業（総務省）**  
**&移住定住促進事業**

上野原市からの要請で  
移住定住促進事業をスタート！！

ところが



上野原市が本年4月に  
「地方創生加速化事業」に応募→採択  
古民家再生、移住促進など



**NPOさいはらの**

**新たな取組みが始まる**

